

都市型生活関連産業振興施設構想

『産業振興施設』は少子・高齢化の急激な進展といった地域特性と未利用地の有効活用とを結び付け、新たな都市型生活関連産業を創出する拠点として構想されました。そこでは“生活者主体”という時代の流れを活かした新たな生活関連産業の創出拠点の整備によって、周辺と一体、連携しながら、二次的、三次的な波及効果を西成のみならず大阪にもたらすものとして期待されました。

まちづくりでは総合就労支援福祉施設「にしなり Wing」、福祉人材開発・研修センター、レンダリング工場などの中核的施設の整備がなされ、それぞれの分野で地区において中心的な役割を担うことが期待されていました。さらに、これら施設が周辺と一体となって、連携しながら、地域の活性化につながるような産業振興上の効果やそれに伴う雇用の創出が求められていました。その一方では未利用地、低利用施設の有効活用が、まちづくりの課題となっていました。そうしたことから、2001 年に「産業振興施設懇談会」が設置され、『都市型生活関連産業振興施設』が構想されました。

生活関連産業は製造業、なかでも衣食住に関連し、最終消費者に密着した産業で、西成の地場産業である『皮革』関連を含む「なめし革・同製品・毛皮製造業」、「衣服・その他の繊維品製造業」「出版・印刷・同関連製造業」などから形成されており、特化係数（全国における当該業種の構成比よりも大阪市の構成比が高い）でみると、全国と比較して高くなっています。

大阪市は他都市と比較し工業集積を有し、この工業部門の成長・発展は、周辺地域や地方に活力を供給しています。製造業なかでも、衣食住に関連し、最終消費者に密着した産業である生活関連産業^{*}は、人口の多い都市に集中する傾向が高く、重要な産業となっています。だが、産業政策は機械・金属などの基盤的技術産業の育成に重点が置かれ、生活関連産業においても社会経済環境の変化に伴う新しい生活者ニーズなどへの的確な対応が必要となっており、新たな構造転換が求められていました。

※生活関連型産業…食料品、飲料・たばこ・飼料、繊維、衣服、その他の繊維製品、家具・装備品、出版・印刷・同関連、なめし革・同製品・毛皮、その他の製造業(事務用品、生活雑貨等)
基礎素材型産業…鉄、石油、木材、紙などの製品で、産業の基礎素材となる製品を製造する産業
加工組立型産業…自動車、テレビ、時計などの加工製品を製造する産業

生活関連産業のなかでも、西成の地域特性に係る「福祉関連分野」「生活文化関連分野」は、将来の成長性が見込まれおり、産業振興施設の整備にあたっては、まちづくりとの連携が重要となっています。人材や事業の育成・創出とともに、なにわ筋沿線の福祉人材開発・研修センター、レンダリング工場、西成製靴塾といった、福祉と産業の拠点施設と『産業振興施設』との連携・交流等も重要になっていました。こうしたことによって、産業振興施設が地域活力の向上のみならず、地場産業の活性化と新産業への展開、地域社会とのつくりの連携、自立就労と雇用促進などが、波及効果として創出されます。

大阪市で生活関連産業の構成比率が大きいブロックは、西成区を含む南部地域（西成、阿倍野、住吉、東住吉の各区）、都市部地域（北、福島、中央、西、天王寺、浪速の各区）となっています。都心部は生活関連型産業のうち「出版・印刷・同関連製造業」に特化していますが、南部地域は、衣服・その他繊維、出版印刷・なめし革・毛皮などの生活関連型産業の比率が高くなっています。

表. ブロック別産業3類型（網掛けは各ブロックの類型別の比重が最も大きい類型）

	事業所数			従業者数			製造品出荷額等		
	生活関連	基礎素材	加工組立	生活関連	基礎素材	加工組立	生活関連	基礎素材	加工組立
都心部（北・福島・中央・西・天王寺・浪速）	64%	25%	11%	72%	18%	11%	73%	18%	9%
北東部（淀川・東淀川・都島・旭・鶴見）	40%	31%	28%	27%	44%	29%	21%	58%	21%
東部（城東・東成・生野・平野）	37%	43%	20%	34%	42%	23%	33%	42%	25%
南部（西成・阿倍野・住吉・東住吉）	58%	29%	13%	48%	29%	23%	37%	27%	35%
西部（西淀川・此花・港・大正・住之江）	19%	46%	35%	14%	57%	29%	14%	60%	26%
全市	42%	37%	21%	37%	40%	23%	34%	44%	22%

また大都市に大きなマーケットを持ち、都市文化とともに緊密に関連しつつ発展する産業である生活関連産業は、産業そのものが大都市生活に必要不可欠であることから、その振興は都市活力の向上を維持発展させるとともに、都市イメージの向上にとっても非常に重要となっています。生活関連産業の振興によって、①今後の成長が期待される②生活者の新たなニーズを吸収できる③大都市立地の優位性を活かせる④新規参入と創業の可能性が大きい、といったことが指摘されています。なかでも、「福祉関連分野」「生活文化関連分野」などが将来の成長が期待される分野としてあげられています。

なにわ筋沿線では福祉人材開発・研修センター、レンダリング工場、西成製靴塾といった、福祉と産業の拠点施設が立地、または計画されています。「生活関連産業振興施設」は、これら施設との連携及び情報や交流によって、「産業振興」「雇用の創出」といった地域の活性化を果たすことが期待されました。具体的には①まちづくりの推進②創業期企業や新分野開拓企業の集積③地域と創業期企業との交流④地域の新事業と人材の育成、⑤自立就労と雇用促進、といったことが波及効果といえます。

産業振興施設は、時代のニーズに対応した新製品の開発や新事業分野への展開のみならず、個別の消費者ニーズを具体的に把握したオーダーメイド対応型の製品など、“生活者主体の製品づくり”を促進する重要な役割を担っています。そのため、入居企業相互の“交流”、“人材育成”、“情報受発信”活動により、個々の企業の育成を促進するインキュベータ施設（企業のふ化・成長を支援する施設）として構想されました。

産業振興施設の構想の目的は

- ✓ 生活関連産業育成に向けて、今後新たに拡大する生活需要など、時代のニーズに対応した新製品の開発や新事業分野への展開等を促進
- ✓ 保有技術・ノウハウからの製品開発だけでなく、個別の消費者ニーズを具体的に把握したオーダーメイド対応型の製品など、生活者主体の製品づくりの促進

施設の位置づけ

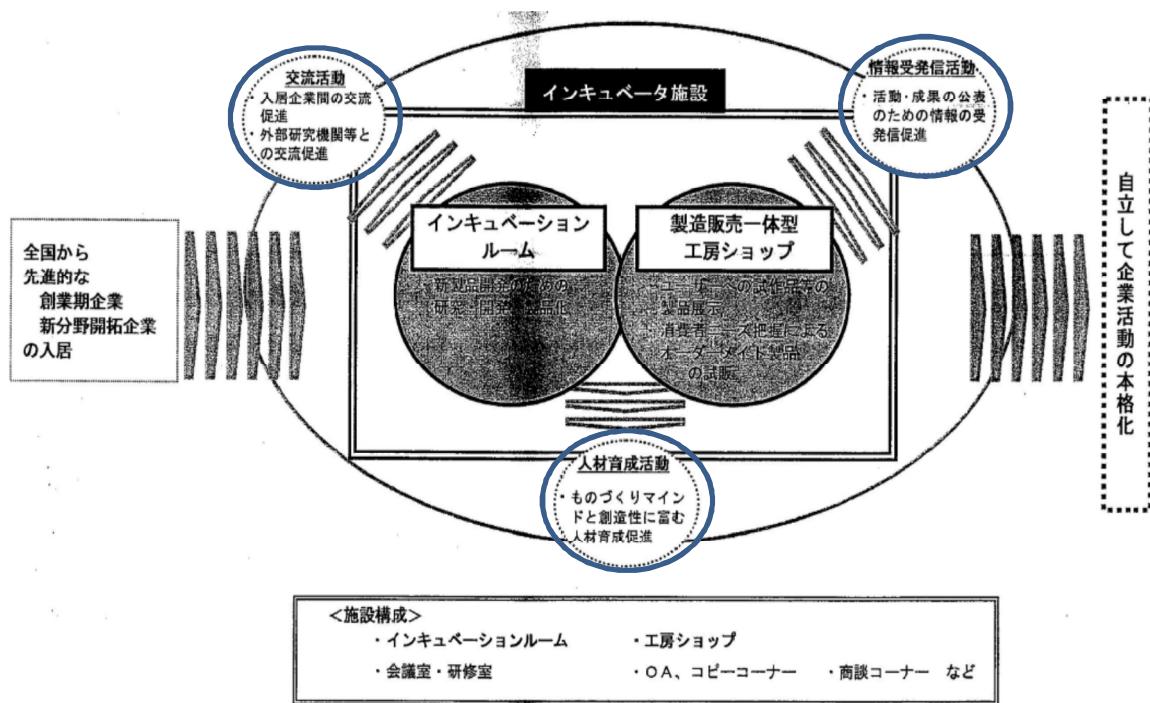
- 新しい時代のニーズに適応した新製品の開発や新事業の展開を図る生活関連産業の中小企業(創業期企業や新分野開拓企業)に対して、その研究開発・製品化に必要なスペースを提供する生活関連型中小企業のインキュベータ施設※として位置づけ、他のインキュベータ施設等との適切な役割分担を果たす。
- 消費者・利用者の声(ニーズ)を製品に反映させることができる製販一体型施設の機能を大阪市初としてインキュベータ施設に取り入れる。

※インキュベータ施設…元来は保育器の意味で、創業準備段階もしくは創業初期の企業に、オフィス・スペースや設備を提供し、併せて情報提供、経営面でのサポートを行うことにより、企業のふ化・成長を助長する機関のこと

施設のコンセプト

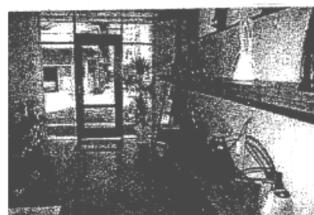
- 企業のふ化・成長を支援するためのインキュベータ施設として、都心周縁部の立地や住・商とも複合した中小製造業の集積といった立地特性、地域特性を生かした施設とする。特に、将来成長の期待されるテーマを中心に生活関連型産業の都市型新事業分野への展開を目指し、併せて地域社会への波及を図る施設とする。
- 施設の入居企業相互の交流、人材育成、情報発信活動により、個々の企業の育成を促進する。

図. 都市型（生活関連）産業振興施設



《成長期待分野の対応例》

- 皮革製品 ⇒ 機能性、ファッショニ性に優れた製品開発
 - ・鞄、袋物、革服、ベルト、手袋などのオーダーメイドデザインの製品
- <ファッショニ性の優れた製品をおく店舗> <工房ショップでのバック製造販売店>



- 靴 ⇒ フットケア商品（コンフォート・シューズ）や高齢者向け靴の開発

<リハビリのためのオーダー靴>

